

厚生労働科学研究費補助金
(障害者対策総合研究事業 (障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)))
(総括・分担) 研究報告書
精神科病院における転倒・骨折等の現状に関する調査に関する研究
研究分担者 江口 研 医療法人仁誠会大湫病院 院長

研究要旨

精神科病院に入院している患者の高齢化は歴然とした事実であり、精神状態の改善を中心とした治療だけでなく、身体合併症およびADLの管理によるQOLの維持は、今後の地域移行を推進するにあたり重大な課題である。本研究では精神科病院入院中の統合失調症患者の転倒、大腿骨頸部骨折の発生実態を調査し、骨粗鬆症などの診断、治療、事故後の整形外科との連携、転倒予防に向けた取り組みなどについて検討することにより、その多次的な解決策を考察することを目的とする。

A. 研究目的

本研究では精神科病院入院中の統合失調症患者の転倒、大腿骨頸部骨折の発生実態を調査し、骨粗鬆症などの診断、治療、事故後の整形外科との連携、転倒予防に向けた取り組みなどについて検討することにより、その多次的な解決策を考察することを目的とする。

B. 研究方法

研究1. 精神科病院における統合失調症患者の転倒による大腿骨近位部骨折事故についての調査

現在、公益社団法人日本精神科病院協会に登録している全国の会員病院に対してアンケート調査を実施し、集計して解析を行う。調査項目としては全国調査については、本研究に対する委員会を立ち上げ、調査項目の検討を行う。平成26年度に精神科病院に入院中の統合失調症患者の転倒による大腿骨近位部骨折事故に関して、転倒および骨折リスク、その他背後要因、転倒リスク評価、転倒予防策等の実情などについて分析検討する。

研究2. 精神科病院における転倒・骨折予防対策についての調査

上記研究1のアンケート結果から精神科病院としての今日の医療水準から取り組むことが可能な実効性のある転倒予防・骨折予防対策、診断、検査、薬物治療、理学的療法について調査し、その実現を困難にしている要因についても考察し、取り組みを容易にさせる条件に付いても検討を深める。

(倫理面への配慮)

調査対象が、訴訟に関わる場合もあるため、個人情報保護の観点に最も留意し、研究実験結果の公表に際しては個人の特定が行えないよう配慮するとともに、データ分析時にも個人名が特定できないよう個人情報を管理する。

C. 研究結果

1207病院に対してアンケートを実施し、461病院(38%)からの回答を得た結果は以下の通りであった。

- ①男女割合は女性が7割弱で、65歳以上で76.6%、後期高齢者で38.4%を占めた
 - ②BMIでは普通体重が53.1%、やせ型が41.5%
 - ③罹病期間、入院期間とも圧倒的に長期化を示した
 - ④入院病棟では精神科療養病棟が49.5%、一般病棟が40.7%
 - ⑤発生場所は居室、発生状況では歩行時、発生時間は午前中が最多であった
 - ⑥19%が骨粗鬆症を併発していたが、骨密度測定による診断は23%に過ぎない
 - ⑦診断法としては超音波法、X線が34.8%と多く、DEXA法13%
 - ⑧骨代謝マーカー検査は全く行われていなかった
 - ⑨過半数が正常歩行機能であり、転倒リスクアセスメントが33.6%で未実施であった
 - ⑩51.5%で転倒の既往、27.8%で骨折の既往があった
 - ⑪転倒予防策としては看護計画活用、情報共有化が主で具体的対策には至らない
 - ⑫骨粗鬆症治療薬では、D3製剤が約50%ビスフォスネート30%で投与されていた
 - ⑬75%が1日以内に診断され、50%が1日以内に転院し治療を行けた
 - ⑭転院後30%が2週間以内帰院し、25%は手術のみでリハビリは受けていない
- 研究2については平成28年12月に公益社団法人日本精神科病院協会に登録している会員病院に対してアンケートを依頼し、現在回収途中である。

D. 考察

461の病院から得られた回答から、精神科病院では高齢化が進み、今後転倒による骨折等の受傷患者は益々増加することが推察された。骨折や骨粗鬆症が地域移行のマイナス要因となり、長期入院患者の地域移行や退院促進のためにも、対策を講じることは重要かつ有用であり、高齢化する患者に対してロコモティブ症候群の予防によりADLの維持をはかり、生活の質の向上に取り組み、不必要な期間の入院を防ぐことによって、地域在宅へ早期に移行することが期待でき、ひいては医療費の抑制に寄与すると考える。

E. 結論

公益社団法人日本精神科病院協会に登録している全会員病院に対してのアンケートから精神科病院における統合失調症患者の転倒による大腿骨近位部骨折事例について転倒および骨折リスク、その他背後要因、転倒リスク評価、転倒予防策等を調査し分析検討した。今後さらに、転倒および大腿骨近位部骨折予防について精神科病院としての今日の医療水準から取り組むことが可能な具体的で有用な転倒予防・骨折予防対策、診断、検査、薬物治療、理学的療法について調査し、その実現を困難にしている要因についても考察し、取り組みを容易にさせる条件に付いても検討を深める。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

口頭発表 1件